

雜 報

◎人 事

岡山醫科大學助教授 濱 崎 幸 雄
 本俸九級俸下賜 (四月二十一日)

叙正六位 從六位 北 山 加 一 郎
 (四月十五日)

(各通) 從六位勳五等 長 谷 川 靜 一
 從六位 畠 山 長 作

叙正六位 (五月二日)

從六位勳五等 高 原 武 一

叙勳四等授瑞寶章 (五月十四日)

岡山醫科大學助教授 武 田 繼 次
 本俸九級俸下賜 (五月二十三日)

○平野 林君 は昭和5年4月以來比律賓に出張中なりしが本年4月30日無事歸朝せられたり

○佐藤 幹君 は今般和歌山縣高野町高野山病院を辭し岡山醫科大學解剖學教室に於て研究に従事せられたり

○藤野 源三君 は今般神戸市立神山病院を辭し岡山醫科大學柿沼内科教室に於て研究に従事せられたり

○辻 鹿子治君 は豫て岡山醫科大學醫化學教室及び稲田内科教室に於て研究中なりしが今岡岡山市下石井に於て開業せられたり

○氏平 繁君 は豫て岡山醫科大學稲田内科教室に勤務し居られしが今般其職を辭し岡山市門田屋敷に於て開業せられたり

○蓬萊 武次君 君は大正元年岡山醫學專門學校を卒業し兵庫縣加東郡福田村に於て開業し居られしが先般病氣の爲め遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へず謹みて茲に用意を表す

◎中村吉太君短信

小生3月16日門司出帆の郵船會社汽船香取丸にて再び渡南し目下左記に住み居り候間以後の岡山醫學會雜誌は當地宛に御送附願上候當地方は目下産物の大部たる「ゴム」の價未曾有の暴落にて市況全く火の消えたる状態夫に日本人に對しては支那人の「ボイコット」實に目も當てられぬ状態に有之候之が何時頃まで持續するかは全く見當附かざる状態に有之候云々

The Nippon Dispensary
 No. 67. Jalan Mariam
 Muar, Johore.
 Via Singapore.

◎入學宣誓式

岡山醫科大學にては本月5日午前10時より本年入學者の入學宣誓式を舉行せり田村學長教育勅語を捧讀し新入學生總代伊賀忠博君宣誓文を朗讀し終て學長の訓示ありて一同宣誓簿に署名して退散したり

◎第4回關西高專陸上競技大會

岡山醫科大學陸上競技部主催にて本月8日同學庭に於て舉行せり出場校は左記7校にて第六高等學校優勝したり

第六高等學校 姫路高等學校 廣島高等學校
 名古屋高等商業學校 高知高等學校 彦根高等商業學校 鳥取高等農林學校

◎第4回關西高專野球大會

岡山醫科大學野球部主催にて本月21、22の兩日同校庭に開會せり參加校は左記の5校にて高松高等商業學校優勝したり

第六高等學校 姫路高等學校 浪花高等學校
 山口高等商業學校 高松高等商業學校

◎學位授與

豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られし藤田晴、小林平吉、橋本亨3君の論文は本年3月22日の教授會を通過し本月6日醫學博士の學位を授與せられ又根岸顯藏、長谷川恒治、渡邊眞澄、氏平繁4君の論文は本年4月18日の教授會を通過し本月21日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

藤 田 晴 君

主 論 文

炭水化物新陳代謝ニ於ケル膽汁酸ノ意義ニ就キテ

1. 糖類同化作用ニ及ボス膽汁酸ノ影響(岡山醫科大學歐文業府第2卷第1號ニ發表ス)
2. 同上(外字生化學雜誌第12卷第3號ニ發表ス)
3. 糖類同化作用ニ及ボス膽汁酸及ビ磷酸鹽ノ影響(外字生化學雜誌第13卷第2號ニ發表ス)
4. 膽汁酸、肝臟糖原質生成促進作用ニ及ボス種々ナルPHヲ有スル磷酸緩衝劑ノ影響(岡山醫科大學歐文業府第3卷第1號ニ發表ス)
5. 「アミノ」酸ヨリノ肝臟糖原質生成ニ及ボス膽汁酸ノ影響(岡山醫科大學歐文業府第3卷第1號ニ發表ス)

參考論文

膽汁酸ノ肝臟糖原質生成促進作用ニ及ボス墨汁及ビ「トルイーレンジアミン」ノ影響(岡山醫科大學歐文業府第2卷第4號ニ發表ス)

小 林 平 吉 君

主 論 文

辜丸ノ移植或ハ其乳劑注入ニヨル卵巢殊ニ卵紅胞内ノGolgi氏裝置ノ變化ニ就テ(本誌第43年第12號ニ發表セリ)

參考論文

1. 「コレステリン」及ビ「レチテン」ノ肝細胞Golgi氏裝置ニ及ボス影響ニ就テ(本誌第42年第4號ニ發表セリ)
2. 含水炭素新陳代謝ニ於ケル肝細胞内ノGolgi氏裝置ノ意義ニ就テ(白坂正吉、小林平吉共著)(本誌第42年第8號ニ發表セリ)
3. 諸種血管收縮藥ノ作用ニ基ク肝細胞ノGolgi氏裝置ノ變化ニ就テ(本誌第42年第9號ニ發表セリ)
4. 副腎組織ニ及ボスK及ビCaノ作用ニ關スル組織學的研究(本誌第43年第7號ニ發表セリ)
5. 植物神經系ニ作用スル2,3物質ノタメ起ル腎上皮ノ變化殊ニ其Golgi氏裝置並ニ「ミトコンドリア」ニ起ル變化ニ就テ(本誌第43年第10號ニ發表セリ)
6. 諸種血管收縮藥ノ作用ニ基ク肝細胞殊ニ其Mitochondrienノ變化ニ就テ(本誌第43年第12號ニ發表セリ)

橋 本 亨 君

主 論 文

非經口的液體注入ノ非特異藥物學的作用ニ就テ(本誌第44年第2號ニ發表ス)

參考論文

1. 余ノ考案シタル肝膽汁採取用膽汁囊ニ就テ(東京醫事新誌第2730號ニ發表ス)
2. 肝臟機能検査法ノ比較研究(東京醫事新誌第2766號ニ發表ス)
3. 進行性淋巴肉芽腫ノ病原體ニ就テ(本誌第43年第10號ニ發表ス)
4. 化膿性腦膜炎ノ「リパノール」療法ニ就テ(東京醫事新誌第2749號ニ發表ス)
5. 蛔蟲ニ起因セル膽石症ノ1例ニ就テ(東京

醫事新誌第 2739 號 = 發表ス)

6. 單純性潰瘍ニ及ボス動脈外膜剝離術ノ影響ニ就テ (本誌第 43 年第 3 號 = 發表ス)

根 岸 顯 藏 君

主 論 文

1. 鳩ニ於ケル玄米白米洗白米飼養實驗及ビ之ヲ主食トセル團體生活者ノ觀察 (昭和 3 年 7 月内務省衛生局報 = 發表ス)
2. 各主食物比較實驗殊ニ玄米白米混合主食ニ依ル脚氣豫防實驗追補 (昭和 5 年 10 月内務省衛生局報 = 發表ス)

參考論文

1. 人體檢便ニ際シテ檢出シタル *Dicrocoelium lanceatum* ノ卵子ニ就テ (本誌第 41 年第 8 號 = 發表ス)
2. 脚氣病豫防ニ關スル調査報告 (昭和 2 年 6 月 13 日内務省衛生局報 = 發表ス)
3. 流行性腦炎又ハ其類屬病ノ流行ニ就テ (日本公衆保險協會雜誌第 3 卷第 11 號 = 發表ス)
4. 「ベラグラ」類似ノ 1 例ニ就テ (廣島衛生醫事月報第 18 年第 211 號 = 發表ス)
5. 淋性關節炎ノ部位ニ就テ (廣島衛生醫事月報第 17 年第 195 號 = 發表ス)
6. 一町村一事業主義ニ就テ (日本公衆保險協會雜誌第 2 卷第 1 號 = 發表ス)

長 谷 川 恒 治 君

主 論 文

L'seuornsbora parva (Temminck & Schlegel) = 寄生セル吸蟲類被囊幼蟲ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 鮎ヲ中間宿主トスル一新吸蟲 *Exorechis major* u. sp. ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

2. 吸蟲類ノ卵子ニ於ケル外表の一特徴ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
3. *Bemerkungen zur Lebensgeschichte der Schistosomum japonicum Katsurada*. Von Prof. Dr. F. Katsurada und Dr. T. Hasegawa. (本誌第 237 號 = 發表ス)
4. 日本住血吸蟲ノ知識ニ關スル増補 (桂田富士郎, 長谷川恒治共著) (東京醫學會雜誌第 27 卷第 2 號 = 發表ス)
5. 「ヒメノレビス・ナナ」ニ關スル知見増補 (長谷川恒治, 山内順一共著) (日本病理學會雜誌第 8 年 = 發表ス)
6. 鱧ニ寄生セル 1 新吸蟲ニ就テ (長谷川恒治, 尾崎佳正共著) (動物學雜誌第 38 卷第 454 號 = 發表ス)

渡 邊 眞 澄 君

主 論 文

日本住血吸蟲「ミラチヂウム」ノ發育 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 肺臟「ヂストマ」「ミラチヂウム」ノ構造ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
2. 肺臟「ヂストマ」ニ關スル研究
其 1 殊ニ *Eriocheir Japonicus* ニ於ケル被囊幼蟲ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
3. 肺臟「ヂストマ」「ミラチヂウム」ノ發育 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

氏 平 繁 君

主 論 文

「インズリン」ト尿酸代謝トノ關係ニ就テ

- 其 1. 尿酸分解酵素「ウリカーゼ」ト「インズリン」 (昭和 6 年 3 月日本消化機病學會雜誌 = 發表ス)

其2. 「スクレイン」酸投與後、家鴨ニ起ル血液尿酸量ノ變化及ビ之ニ及ボス「インズリン」ノ作用ニ就テ (昭和6年7月日本消化機病學會雜誌ニ發表ス)

其3. 正常家兎ニ於ケル尿酸代謝ニ及ボス「インズリン」ノ影響 (昭和6年11月日本消化機病學會雜誌ニ發表ス)

參考論文

1. 「インズリン」ノ窒素代謝ニ及ボス影響ニ就テ (昭和3年9月日本消化機病學會雜誌ニ發表ス)
2. 肺結核患者ノ肝臟機能ニ就テ (昭和7年6月日本内科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
3. 實驗的家兎熱射病時ニ於ケルニ、三血液成分ノ變化ニ就テ (氏平繁、桑名省郎、富田廉三共著) (昭和7年7月日本内科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
4. 五日熱ノ1例 (稲田進、堀部元一、氏平繁共著) (實驗醫報第144號ニ發表ス)

◎岡山醫學同窓會の創立總會

待望の岡山醫學同窓會は愈々豫定の筋書を歩んで5月8日岡山醫科大學生化學教室に於て勇ましき呱呱の聲を擧げた。當日は折悪しく雨天であつたが、殆ど全國から參集せられた同窓諸君は所々に屯して懇談快談に花を咲かせ眞に和氣藹然たるものがあつた。午後7時40分赤澤乾一君司會の下に開會は宣せられ、藤原鐵太郎君は岡山醫學の歴史を述べ、學制の變革はあつても師弟の間柄も先輩後輩の親交も益々良好の度を増すのみで、一絲紊れぬ一致團結の強さは日本の醫界に際と光つて來たが、今日茲に將に之を形に現す同窓會の誕生せん事芽度度き極みであると、將來への希望をも附加して開會の辭を述べ、續いて田村學長から母校の長として歡迎の御挨拶

があり、各自業務の發展も岡山醫學々風の振作も共に同窓の和合團結に待つもの多きを力説せられ、本會の創立を祝福して降壇、次に教授田部浩君登壇して本會創立の經過を報告したのであつた。大體は3月發行の本誌に載つて居るがと冒頭して説明し、最後に會則中の要點につき、本會の統制と永續と繁榮とを願つて母校との關係を密にした事、會費をとらないで寄附制度にしたのは、本會が豫め特別の事業を企畫して居るが爲では決してない。唯少くも發會だけでも1人も缺けない全同窓生を以ての氣持のよい誕生を願つた爲と、會費未納によつて生ずるお互の不快を避けて年額壹圓位を寄附として納めて貰ふ方が紳士的だと考へたが爲であるが、大體は之で立ち行き得る豫想を持つて居ても、萬一を考慮して「當分」の文字を挿入したのであると會則立案の趣旨を述べて會則審議に豫備知識を與へた。

次に赤澤司會者は登壇して、議事に入る前の議長選舉を満場に諮り、津山市の河野稻太郎君の動議成立して議長に石本於義太君を推しかくて會則の逐條審議を行ひ原案を可決した。茲に於て田村學長再び登壇會長としての就任挨拶を述べられ、次で會員の感談發表に移つて行き、徳島縣の成田芳夫君(大正12年卒)、津山市の河野稻太郎君(明治31年卒)、豊橋市の山本新次郎君(明治37年卒)、大學病理學教室の玉川忠太君(大正9年卒)等の感激に満ちた祝辭演説の後、諸方からの祝電を披露し、教授奥島貫一郎君の閉會の辭を以て盛會裡に創立總會を終つたのであつた。來り會せし約200名の會員は總會後引續き學内大食堂に於ける學長招待宴に臨み、學長の御挨拶と山口縣の河内山政一君(明治27年卒)の謝辭とに依つて立食が始められ、若き日の想出に歌談湧くが如く、宴亦酣なる時、前學長田中文男教授は一場の感談を試みられ、同教授の發聲で同窓會の萬歳を三唱して宴を閉ぢたが、一同が名残を惜しんで退散したのは午後10時半であつた。

◎岡山醫學同窓會規則

1. 名稱

第1條 本會は岡山醫學同窓會と稱す

2. 目的

第2條 本會は會員相互の親睦を厚くし學術の向上を圖り母校の發展に盡すを以て目的とす

3. 組織

第3條 本會は通常會員、特別會員及名譽會員を以て組織す

1. 左記に該當する者は通常會員とす

岡山縣醫學校、第三高等中學校醫學部、第三高等學校醫學部、岡山醫學專門學校、岡山醫科大學、岡山醫科大學附屬醫學專門部の出身者、岡山醫科大學々生及岡山醫科大學教室に於て研究に従事せる者

2. 岡山醫科大學の教官、學生主事、事務官、藥局長を特別會員とす

3. 本會の關係者にして役員會の推薦にかかるものを名譽會員とす

4. 役員

第4條 本會に左の役員を置く

會長 1名、幹事 若干名、評議員 若干名
役員は役員會を組織す

第5條 會長は會務を總理し、岡山醫科大學長を推戴して之に充つ

幹事は會長を補佐して會務を處理し岡山市若くは其の附近在住の會員中より會長之を依頼す
評議員は役員會に於て重要な會務を評議し、各地支部代表者を以て之に充つ

第6條 役員の任期を1箇年とす、但し重任を妨げず

5. 本部並支部

第7條 本會の本部を岡山醫科大學内に置く

第8條 本部に書記を置く事を得、書記は幹事の命に依り事務を司る

第9條 本會は各地に支部を設置す

支部は其の代表者と事務所とを定めて本部に通知するものとす

第10條 會員は卒業年次、住所、職業等を本部に通知し變動ある時は其の都度通知するものとす

6. 事業

第11條 本會は總會を開き會報を發行し隨時目的遂行に資すべき各種の事業を行ふ

7. 會計

第12條 本會は當分會費を徴收せず、經費は概有志の寄附を以て之を支辨す

8. 規則の變更

第12條 規則の變更は役員會の決議を経、總會に於て出席會員3分の2以上の同意を要す